

行政改革推進会議（第7回）

議 事 録

内閣官房行政改革推進本部事務局

行政改革推進会議（第7回） 議 事 次 第

日 時 平成25年11月20日（水）17：00～17：30

場 所 官邸2階小ホール

1. 開 会

2. 議 事

行政事業レビュー

3. 議長挨拶

4. 閉 会

○稲田行政改革担当大臣 ただいまより、「第7回行政改革推進会議」を開会いたします。本日は、お忙しい中、お集まりを頂き、ありがとうございます。

安倍総理は、所用のため、途中から出席させていただきます。

それでは、議事を始めます。本日の議題は「行政事業レビュー」です。先週11月13日から15日にかけて秋のレビューを開催し、公開の場で、外部の有識者と各府省の担当者が議論することにより、55の事業について検証を行いました。

その検証の結果を取りまとめたものがお手元の資料になります。

それでは、歳出改革ワーキンググループ座長である土居議員より、資料を御説明いただきます。

○土居議員 それでは、秋のレビューの御説明をさせていただきます。

秋のレビューでは、行政事業レビューの本旨でありますPDCAサイクルの徹底のため、特に「①事業目的の明確性」「②事業の有効性・実効性」「③より低コストな手法への改善可能性」の3つの視点から議論が行われました。

当日の議論は全てインターネットで中継されまして、全日程で約23万人の視聴があり、コメントは約2万3,000件にも及びました。

また、番組終了後のアンケートでは、良かったという方が約85%、うち、とても良いとおっしゃった方が65%に達するという、相当程度好意的な御評価をいただきました。

結果につきましては、お手元の資料を御参照いただきたいと思いますけれども、外部有識者より全てのテーマについて、相当厳しいものを含め、事業に関する今後の改善の方向性などが指摘されました。

時間の都合もございますので、全てのテーマについての説明は割愛させていただきますけれども、私自身も参加させていただきましたセッションにおける議論を、幾つか御紹介させていただきますと思います。

お手元の資料の6ページを御覧いただきたいと思います。「『秋のレビュー』のとりまとめ（案）」という資料でございます。

6ページには、「地球温暖化防止等に関する事業」のうち「チャレンジ25地域づくりモデル事業」についての結果を記しております。この事業は温室効果ガス削減に効果的な先進的対策の検証を行うというものでありますけれども、いわゆる雪冷房という事業などが含まれており、支援対象の選択が厳密に行われているとは言いがたく、効果の検証方法を確立し、支援対象を限定すべきではないかと指摘がなされたところであります。

7ページの「ICTを活用した教育学習の振興に関する事業」ですけれども、これはタブレット型パソコンや電子黒板を活用し、小中学校などで実証を行うという事業なのですが、少ない予算でより効率を上げるという発想に欠けており、ICTの普及や費用対効果、教育内容の改革に向けた具体的なビジョン、工程表を示すべきではないか、実証数も絞り込むべきではないかという指摘がなされました。

9 ページは「医療サービスの機能の充実と重点化・効率化」と題したものでありますけれども、これは医療費の仕組み、すなわち診療報酬改定のプロセスが国民に十分に伝えられているかどうかということ进行を問うという形で議論をいたしました。

有識者からは、国民に十分伝えられているとは言いがたく「医療費負担者である国民の声をこれまで以上に反映できる枠組みを構築すべきではないか」という指摘がなされました。

また、診療報酬改定で本体と薬価がそれぞれ独立して決定できるよう、意思決定過程を改めるとともに、薬価の下落分を診療報酬本体の引上げの原資に使うということは、合理性に欠くのでやめるべきではないかという指摘がなされたところでもあります。

その下の「後発医薬品の使用促進等」という項目でありますけれども、後発医薬品の使用促進のロードマップにおける目標値の引き上げや達成時期の前倒しを行い、先発薬と後発薬の双方の薬価を下げることを通じて、国民の医療費の負担を下げるということを最重要課題として取り組む必要があるという指摘をいただきました。

歳出改革ワーキンググループといたしましては、資料にある秋のレビューの指摘事項について、行政改革推進会議として取りまとめていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上です。

○稲田行政改革担当大臣 ありがとうございます。

私もこの教育の ICT 化に関する事業の現地視察を行い、秋のレビューの当日の議論も傍聴させていただきました。現場の実態を踏まえた有益な指摘がなされ、非常に有意義な議論になっていたと思います。

それでは、ただいま土居議員に御説明いただいた、秋のレビューの検証結果について、今後のフォローアップの方法などに御意見があれば、頂きたいと思ひます。

御発言される方は、お手数ですがネームプレートを立てていただくよう、お願いいたします。

小林議員、お願いします。

○小林議員 私自身、このレビュー自身には立ち会わなかったのですがけれども、立ち会った方からいろいろ承って感じましたのは、まず、非常に緊張感が出て良かったなと感じました。

我々一般の民間企業では、例えば社外役員というものがいるわけですが、社外役員は、企業あるいは組織の常識と全然違ったアプローチをしてくるのです。だから、その意味で今回の非常に機能的にワークできたのではないかなという感じが致します。

ただ、大事なのは、これをきちんと PDCA で本当に次をフォローしていくということでありまして、これは1回やってとりあえずはできましたというので、これで終わってもらっては困るということです。

それと、幾つか拝見していますと、Pそのものが非常にクエスチョンなものがあるわけです。Pがクエスチョンですと、PDCAをやってもまた同じようなどろどろしたことになるので、入り口をきちんと押さえていくということをしておかないと、今後いろいろな問題がつきまとうのではないかと思いますので、ぜひ入口、プランそのものに関する検証をきちんとする、走ったときにはPDCAを必ず回していくということでやっていただければ、非常にいいのではないかと思います。

少なくとも今回はパフォーマンス的なことは全くなくて、実質的にやっていただいたのが非常によかったと感じました。

以上です。

○稲田行政改革担当大臣 今、御指摘いただいたように、今回は政務が全く入らずに、各府省の人と行革チームの有識者とが、本当に真剣な緊張感のある議論をなさったと思います。

御指摘のように、最初からそもそもこれは一体どういうつもりでこの事業があるのかなと疑問を感じるものもあったところでございます。

他に御意見はいかがでしょうか。麻生副総理、お願いします。

○麻生副総理 先ほど土居座長からの話で相当な厳しい指摘もあったように、いわゆる歳出の側から見ますと、これは重点化、効率化を進めていかねばならぬというのが私どもの立場なのですが、有益な御指摘をいただいたとあって大変感謝を申し上げるところです。

財務省としても、この行革の事務局と連携しながら、今回の取りまとめで指摘をされたいろいろな部分に対しまして、各省とともに検討を行ってその結果を26年度のいわゆる予算に反映をさせてまいりたいと考えております。

○稲田行政改革担当大臣 麻生副総理、ありがとうございます。

本当に、派手さはないけれども、実務的な議論ができたと思います。しかし、それを予算に反映できるか、また次のPDCAサイクルに回していけるかというところを見ていると思いますので、しっかり取り組まなくてはいけないと思います。

秋池議員、よろしく申し上げます。

○秋池議員 私もこのレビューはとても良かったとっております。

思いますのは、今回このように指摘されたことについて、指摘されっ放しで終わるのではなくて、きちんとアクション・プランを作って、それを誰かがモニタリングしていくということが、PDCAサイクルと口では言うのですけれども、言ったまま何年も経ってしまうということも起こりかねませんので、そこが非常に重要かと思っております。

ですので、来年もこのようなレビューというものはあるのだと思うのですけれども、ものによっては、もう一度来年見てみて改善されているかを確認するでありますとか、レビューの場でないにしても、そのようなことが行われるといいのかと思います。

小林議員もおっしゃいましたが、プランそのものというところが問われているものも幾つかあるわけで、曖昧に始めることによって情勢に応じて取り組みやすくなるということ

はもちろんあるかと思うのですけれども、そこはプラン自体もどう確立されていっているのかという過程が確認されることも重要と思いますし、事業によってはどこまでいったら終わらせるのだということを決めておくことも、重要なのかなと考えております。

○稲田行政改革担当大臣 ありがとうございます。

畠中先生、よろしく申し上げます。

○畠中議員 先ほど小林議員と秋池議員からも御指摘があった、P、プランの段階が問題だという。これは前の会議でも森田先生などからも御指摘があったので、私もそのとおりでと思うのですけれども、これは構造的な問題がありまして、というのは、役所というのはパーキンソンの法則ではないけれども、権限拡大の傾向にあるのです。

これは必ずしも悪いことではないと思うのです。それが国民のためになるならば、必ずしも悪いことではないのですけれども、これが行き過ぎますと、国民のためというのが二の次になって、省のため、予算獲得が第一目的になる可能性があるのです。そうすると、とにかく予算を獲得する、その予算を獲得した人が評価されるという傾向になりがちなのです。全ての省庁がそうだとやっているわけではないですよ。

だから、こういう事業レビューで指摘し、これを必ずPの段階に反映するという仕組みが大事で、それによってお役人の意識の改革もされるのではないかと思います。

○稲田行政改革担当大臣 ありがとうございます。

まさしく行政の縦割りの弊害ということも、このPの段階で甘い事業をプランしてしまうということもあるのかなと思います。

森田議員、お願いします。

○森田議員 既にほかの先生方がおっしゃいましたけれども、やはり私自身もPが非常に重要だということは前回も申し上げましたし、そのとおりでと思います。

その場合に、ある問題を解決する、ある目的のためにその手段が何故に一番合理的なのかということですね。その辺は今、政策分析とかいろいろとそういう学術的な方法でも研究が進んでいるところだと思います。もちろん、まだ不十分なものではありませんけれども、そうしたものを活用して、できれば、公共事業の一部で始まっていますけれども、事前に果たしてこれは本当に効果があるのか、教育にICTを使う場合に、こういう方法でやったら本当に教育効果があるのかとか、そうした農業を育成するためにはいろいろそういう方法があるのか、そうした意味での検証というのを事前にやっていくことも重要ではないかなと思っています。

やった後うまくいかなかったというレビューもきちんとやっていく必要があると思いますが、もう一つは、これはずっと拝見しておりまして、私も実は参加できなかったのですが、いろいろと活発に行われたと聞いておりますが、かなり厳しい意見が並んでいるわけですが、中にはこれはすごくよくやっているというものはなかったのでしょうか。いわゆるグッドプラクティスのようなものを1つ示して、それで皆さんをエンカレッジするというのも、レビューの一つのあり方かなという気が致します。

以上でございます。

○稲田行政改革担当大臣 本当におっしゃるとおりだと思いますし、前回小林議員からもそういういい取り組みを褒めるとか、インセンティブを働かせるというのがありましたが、私が見た限りではそういうものはなかったのです。

土居先生、お願いします。

○土居議員 少しでも付け加えさせていただきますと、有識者の側で参加させていただいた立場としては、よいことは既に各省が御説明になるのです。なので、極端に言えば、あえてよく頑張った、もちろんよく頑張っているけれどもという言い方をされる参加者もいらっちゃって、そこは褒めてはいるつもりではあるのですが、ただ、それ以上にもう少し工夫すればもっとうまくできるのにと、能力があるからこそ頑張ってもらいたいという思いもあっておっしゃった方も、有識者の中には多分いらっちゃったのではないかと。

なので、例えば、ICT の先ほど御紹介した話でも、実際コンピューターなどの環境を教室に整えるということで学習の理解度が上がったとか、そういうところは、これはまさに実際に成果が出ているところについては、それはそれとして評価をする。

ただ、実際に取りまとめの中には評価するとまでは書いていませんけれども、評価した上で、これを違う形で引き続きお続けになるという御提案を各省からなされたものですから、お続けになるということであれば、もっとジャンプアップ、レベルアップしてやっていただきたい。では、そのときに何が必要なのだという議論の展開だったかな。

これで一旦終了いたします、これで事業は終わりますけれども、いかがだったでしょうかということだとすると、悪いところは悪いかもしれないけれども、いいところはいいで頑張りましたという評価はできたかもしれないという気はいたします。

○稲田行政改革担当大臣 ほかに御意見はございますでしょうか。

どうもありがとうございます。それでは、秋の行政事業レビューの検証結果については、お手元の資料を本会議として御了承いただいたものとさせていただきます。本日頂いた御意見を含め、秋のレビューの検証結果が年末の予算編成に活用されるよう、各府省の取組状況をフォローアップしてまいります。

まずは、明後日 22 日、杉田副長官のもと、全府省の官房長など行政事業レビューの事務方の責任者を招集し、秋のレビューの検証結果を踏まえた具体的な改善を求める予定であります。

その上で、秋のレビューから約 1 カ月後の 12 月 10 日までに、各府省の事業の改善の方向性について、事務局に報告していただき、報告内容が取りまとめ結果に沿っていない場合には、説明をしっかりと求めていきたいと思っております。

また、今回、議論を傍聴して改めて感じたことですが、PDCA サイクルを徹底させるためには、公務員一人一人が自分が関わる事業はどのような問題を解決しようとしているのか、どこまで目標を達成したと評価しているのか、より良くするには何を改善したらよいか

といった、当たり前のことを当たり前と考えられるように、予算に対する公務員の意識改革や政策立案能力の底上げを図ることが重要だと思います。

このため、若手職員の研修や、効果を出している優れた取組を積極的に評価する方法について検討していきたいと思います。また、公務員制度改革担当大臣としても、内閣人事局を設置し、幹部候補育成課程を設けて職員の研修を強化し、能力実績主義の人事を徹底するべく法案を国会に提出しているところです。レビューに当たる職員の能力を高めるためにも、法案の早期成立を目指してまいりたいと思っております。

先ほど麻生副総理からも御発言がございましたように、行政事業レビューの取組を通してPDCAサイクルの徹底、無駄の削減にしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

また、秋のレビューの取りまとめ結果がしっかりと反映されるようフォローしてまいります。

最後に、安倍総理から御発言を頂きたいと思いますが、プレスが入室いたしますので、少々お待ちいただきたいと思っております。

(プレス入室)

○稲田行政改革担当大臣 安倍総理、よろしくお願いいたします。

○安倍内閣総理大臣 安倍内閣は、経済再生と財政健全化を同時に達成するとともに、社会保障を安定させ、次世代にしっかりと引き渡すため、来年4月に消費税を引き上げるという厳しい決断をいたしました。

国民の皆様には御負担をいただく税金が無駄な歳出や、優先順位が低い施策に使われるといった批判は、絶対に招かないようにしていかなければなりません。

今回、各府省の事業を外部の有識者の目線で厳しくチェックをする「秋のレビュー」を、公開の場で行いました。その中では改善の方向に向けた厳しい御指摘も頂き、極めて有意義な議論が行われました。取りまとめに御協力をいただいた民間有識者の皆様には、改めて御礼を申し上げます。取りまとめられた検証結果をもとに、内閣として確実に改善に努めてまいります。

まずは、各府省と財務省で一つ一つ具体的な改善に向けた検討を進め、行政改革担当大臣にもフォローをしてもらい、しっかりと来年度予算に反映をしてまいります。

こうした取組を通じて、政府全体として引き続き無駄の撲滅を徹底してまいります。委員の皆様におかれましては、今後とも御協力を頂きますようよろしくお願いいたします。

○稲田行政改革担当大臣 ありがとうございました。

プレスの方は、ここで退室してください。

(プレス退室)

○稲田行政改革担当大臣 以上をもちまして、本日の会議を終了させていただきます。どうもありがとうございます。